

# 平成26年度事業計画書

## ＜基本方針＞

我が国経済は、安倍政権の経済政策により景気が上向いているが、消費税増税等の影響が懸念される。北陸地域においては、北陸新幹線開業を本年度に控え、景気は回復基調である。

当財団は、北陸地域（富山、石川、福井）の産業活性化及び活力ある地域経済を実現するための調査、研究や大学・企業等の研究助成、大学および公設試験研究機関のシーズ（研究成果）の紹介等、各種事業を実施してきた。

平成26年度については、上記の社会環境等を念頭に、これまでの公益事業を継続し、事業活動、支援活動を効果的に推進する。各種活動の一層の充実を図るため、これまで培った産・学・官とのネットワークを維持・活用すると共に、北陸経済連合会イノベーション推進事業部と情報交換を密にし、コンサルティング及び支援活動により、新規事業・新規産業の創出や異業種交流の促進を図り、地域経済の活力維持・発展に寄与することとする。また、これら社会環境変化等が当財団に与える影響を考慮し、各種活動にあたっては効果を重視しながらも、効率的な運用に努めることとする。

## ＜事業内容＞

### 1. 北陸地域の産業の活性化に関する調査、研究

#### (1) 「北陸地域の製造業における中小企業の現状と課題」に関する調査及び研究

日本の製造業の企業経営、技術水準の高さは、国際的にも高く評価されている。機械や電機の大企業が注目されがちであるが、中小企業の本数は全国に約385万社あり、全企業数の99%を占めており、国内産業において大きな役割を担っている。

至近では、行き過ぎた円高も是正され、国内企業の業績回復も見られるが、まだまだ国内の中小企業においては経営を取り巻く環境は厳しい状況にある。

そのような中、北陸には企業経営や技術力において実力のある中小企業も多い。そこで、今回、北陸の優れた中小企業、いわゆる元気な企業とはどのような経営方針、設備投資、研究体制、人材育成、産学官金連携、補助金制度の活用を行っているか等を調査分析する。また、全国大での成功例の調査も行い、今後の北陸の産業発展への可能性を研究する。

#### (2) 「北陸地域における農業分野の今後の方向性」に関する調査及び研究

国内における農業の現状は、農業従事者が平成に入ってからこの20年余りで、ほぼ半減の260万人台となり、平均年齢も65歳台と高齢化が進み、農家1戸当たりの耕作面積も極端に少なく、生産性が欧米に比べて極めて低い現状にある。また、農業従事者の所得

水準の低さから新たな担い手も生まれず、農業分野の今後はますます厳しさを増すものと予想される。

こうした中で、政府が提唱している民間投資を喚起する成長戦略の対象産業には「農業」が含まれ、今後は収益性や生産効率の改善に向けての政策支援が本格化するものと予想される。具体的な項目としては、①6次産業化②農商工連携③農地の集約化④減反政策の見直し等が挙げられる。

そこで、農業分野における生産性の向上や農業従事者の所得向上、国際競争力の強化を図るため、農業生産の集約化や生産から加工・流通・販売による一貫体制の確立、加工業界・流通業界・販売業界などとの新たな業務提携拡大、新産業創出などについて全国大や北陸地域の各種政策支援を含めた現状や課題を調査・研究し、農業分野における今後の進むべき方向性を探る。

## 2. 北陸地域の産業の活性化に関するプロジェクトに必要なコンサルティングおよび支援

### (1) 産・学・官との連携と支援活動

北陸地域における新規事業や新規産業創出に寄与するために、産学官の連携により、次世代自動車や次世代ロボットを始めとして、ライフケア、バイオ、ナノテク、炭素繊維等、北陸の優れた最先端技術でイノベーションを生み出し、新たなビジネスチャンスを造り上げる事業展開を支援する。また、産学官連携や異業種交流の支援に加え、大学・企業間等の技術シーズのマッチング等を支援する。

#### 〔重点実施事項〕

- ・炭素繊維の応用技術の開発とマッチング活動への支援
- ・BTL開発と事業化に向けた活動への支援
- ・旧北陸ものづくり創生協議会4研究会との連携及び支援
- ・廃棄物や未利用資源のリサイクルなど環境技術に関する支援
- ・コンバートEV事業化研究会による実用車開発への支援  
(北陸経済連合会との共同実施)
- ・次世代ロボット研究会による新技術・新商品の研究開発への支援  
(北陸経済連合会との共同実施)

### (2) 国等の事業への支援

国、地方自治体、独立行政法人、大学法人、経済団体、地域団体等が主催または実行委員会を組織して実施する事業で北陸地域の経済・産業の活性化に寄与する事業について、共催、後援、協賛、補助等の支援を実施する。

### (3) 技術アドバイス、コーディネート活動の充実

産学官連携による事業展開支援やマッチング等の各種支援を、より効果的に行うためにコーディネータによる各事業への技術アドバイスやコーディネート活動を展開する。

〔重点実施事項〕

- ・過年度R&D推進・研究助成採択事業のフォローと活動支援
- ・産学官連携機関との連携および支援

### 3. 健やかな少子高齢化社会の構築をリードする北陸ライフサイエンスクラスターの形成事業 ＜文部科学省補助事業：地域イノベーション戦略支援プログラム＞

平成25年8月に事業開始した「北陸ライフサイエンスクラスター事業」の「総合調整機関」として、国際的な医療機器・医薬品・先端医用器具産業の形成、裾野の広い健康関連産業の創出のため、富山県・石川県における知的クラスター創成事業（Ⅰ期・Ⅱ期）での研究成果を進展させ、福井県も加えた三県一体で事業化を見据えた国際競争力を持つイノベーション拠点を構築していく。

〔重点実施事項〕

- ・招へい研究者の研究課題の進捗管理と事業化支援
- ・コーディネータによる知のネットワーク構築活動
- ・国際技術動向調査
- ・競争的外部資金の獲得

### 4. 北陸地域の産業の活性化に関する研究に対する助成〔R&D推進・研究助成事業〕

新規事業・新規産業の創出に関する事業や企業間のマッチング事業などについて、企業が大学および公設試験研究機関などを行う共同研究や企業間の共同研究など、最先端のイノベーションに直結する事業について公募を行い助成事業を実施する。

### 5. 北陸地域の産業の活性化のための普及啓発

#### (1) 技術シーズ（研究成果）の発表会等の開催

産学官連携による研究開発を推進する一環として関係団体と連携し、大学および公設試験研究機関の技術シーズ（研究成果）について発表会等を開催して、北陸地域企業とのマッチングや当財団の活動について、理解を深めてもらう。

## (2) 講演会・セミナー等の開催

北陸地域の産業の活性化に資する課題や当財団が実施した調査研究成果に理解を深めてもらうため、講演会・セミナー等を積極的に開催する。

## (3) 会報誌の発行

当財団の各種調査、研究事業の成果や助成事業ならびに主催または共催した講演会、セミナー等の結果について報告するとともに、産業活性化を目指す地域の取り組みなどを賛助会員および関係先等に広く紹介するため、会報誌を発行する。会報誌の制作にあたっては自主企画、立案、直接取材を基本に、親しまれる会報誌を目指す。

## 6. 情報提供事業

パンフレットの作成・配布やインターネットの当財団のホームページ等により、事業活動等各種情報のタイムリーな提供に引き続き努める。また、文部科学省、中部経済産業局、北陸経済連合会と情報交換を密にし、引き続き協調・連携体制を維持していく。

## 7. その他

当財団は、平成23年度の一般財団法人移行時に策定した「公益目的支出計画」に従い、公益事業活動を着実に実施する。また、新産業や次世代産業創出など、北陸地域の産業活性化のための諸活動について、新たな視点で改善改革し、効果的、精力的に展開することとする。

業務の運営にあたっては、財団員間の情報の共有とコミュニケーションの充実により、意思の疎通を図り、コンプライアンス遵守、人権尊重のもと、一人ひとりの自律的な管理、チャレンジ意欲を持って業務を行い、組織の目標達成のため邁進することとする。

以上